

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

大村良介氏 下関市医師会 10月9日 享年65

編集後記

酔っぱらい、ご存知ですね。酒にひどく酔った人。決して好意的な表現ではありません。実は私、かれこれ20年前にWHOが、たばこの次にアルコールをターゲットにするというニュースを知り、爾来胸を痛めておりました。

楽しい宴の最中、ふっとこの恐ろしい決定を思い出すのですが、脳が奈良漬け状態のわが友人たちは、そんなことあるわけないと笑い飛ばすのが常でした。そんな人のいい酔っぱらいの思い込みを踏みにじるように、2004年WHOは「世界で250万人がアルコールに関連した原因で死亡」と報告。2010年WHO総会では「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」を全会一致。

酒飲みの肩身がどんどん狭くなっています。飲み会はハラスメントの温床といわれ、コロナ禍も追い打ちです。今若い世代では、「飲めるけれど、飲まない」(Sober Curious)の人たちが増えているそうです。

こんな逆境の中、新刊『酔っ払いが変えた世界史』を見つけました。勇気をもらえそう。まず第1章、アルコールを摂取することで1000万年前に私たちの祖先に遺伝子異変が起こり、その後の人類とその社会の発展に大きな影響を与えることになった、と壮大なスタートです。紀元前の人類はパンよりも先にビールを発明したという学説もあるそう。エジプトのクフ王のピラミッド建設現場周辺にはビール醸造所跡が発見されており、労働者は一日当たり3、4個のパンと、ジョッキ2杯分(4～5リットル)のビールを受け取っていた。古今東西の酒にまつわるさまざまなエピソードが披露されるのですが、後半になると雲行きが怪しくなっていきます。アレクサンドロス大王はローマとの覇権争いの目前に大酒のせいで32歳の若さで亡くなった。オスマン帝国の皇帝セリム2世は新築の浴場で葡萄酒1瓶分を飲み干したため転倒し亡くなった。アメリカ大統領リンカーンが暗殺されたとき、ボディガードは酒場で深酒をして不在だった。ケネディ大統領暗殺もシークレットサービスの7人全員が朝の3時、5時まで酒場で飲んでおり、二日酔いのため迅速な対応ができなかった疑惑があったそうです。

うーん 四面楚歌、時利あらず。いやいや酒に罪はない。この本を肴にでもして、友と楽しく美味しく賢く飲める日を待ちましょう。

『酔っ払いが変えた世界史 アレクサンドロス大王からエリツィンまで』

ブノワ・フランクバルム著 原書房

(常任理事 長谷川奈津江)